

News Letter

L-FABP

Autumn 2013

No.2

本紙では L-FABP に関する資料や L-FABP 利用上のポイントなどをおもにご紹介していきます。

インフォメーション

2013.08

 **日本腎臓学会 編****尿中L-FABP が
『エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2013』
に収載されました！** **Keywords**

尿中バイオマーカー、尿中L-FABP (L型脂肪酸結合蛋白)、慢性腎臓病 (CKD)、糖尿病性腎症 (DN)、急性腎障害 (AKI)、尿細管間質障害、腎機能予後の予測因子

CKD診療ガイドライン2013に収載

尿細管機能障害マーカーとして2011年8月に保険収載された尿中L-FABPが、本年8月、日本腎臓学会発刊の「エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2013」に収載されました。おもな内容は、①L-FABPの機序の紹介 ②糖尿病性腎症患者における尿中L-FABPレベルがアルブミン尿の程度や腎機能予後と相関していること ③急性腎障害 (AKI) に関する尿中バイオマーカーとして確立されつつあること ④尿中L-FABP測定は薬事承認され、2011年8月より保険適用となっていること です。

なお、AKIのマーカーとしてNGALとKIM1も挙げられていますが、これらに関しては現時点ではCKDのバイオマーカーとして十分なエビデンスがあるとは言えない、と言及されています。

L-FABPに関する詳細な収載内容につきましては、ご利用の検査センターまでご連絡ください。

< 収載誌 >

日本腎臓学会誌 Vol.55 No.5 (581-982), 2013, P.611-612: CQ6

CKDのフォローアップに有用な尿中バイオマーカーは何か？

L-FABPとは

L-FABP(Liver-type Fatty Acid Binding Protein) は腎臓の近位尿細管に存在する脂肪酸結合蛋白です。**腎障害が進行する前に生じる尿細管周囲の虚血や酸化ストレスによって尿中に排泄されます。**糖尿病性腎症を含む慢性腎障害(CKD)や急性腎障害(AKI)の早期判別、疾患進行予後予測に有用とされるバイオマーカーです。

検 体: **新尿(随時尿)**基準値: **尿クレアチニン換算値 8.4 μg/gCr以下**

測定されているおもな領域:

腎臓高血圧、心血管(循環器)、急性期/ICU測定依頼: **ご利用の検査センターまでご連絡ください。**

▶ L-FABPを詳しく知りたい方はコチラで検索 ◀

fabp.jp**<http://www.fabp.jp>**

(編集 = シミックホールディングス)

腎臓病学団体、KDIGOが発行するAKI国際ガイドラインでL-FABPが紹介される

KDIGO Clinical Practice Guideline for Acute Kidney Injury (Online Appendices A-F, March 2012) より抜粋

Urinary L type fatty acid binding protein (L-FABP)

L-FABP binds selectively to intracellular free unsaturated fatty acids and lipid peroxidation products during hypoxic tissue injury. Urinary L-FABP has recently been shown to be a potential biomarker for the detection and assessment of AKI. Recently urinary L-FABP has been reported as an early marker of AKI in clinical studies where AKI was caused by acute tubular necrosis, sepsis, cardiac surgery, and nephrotoxins, including radiocontrast agents. In these studies, urinary L-FABP was shown to reach high levels before the elevation of SCr. Ferguson et al. have demonstrated in a cross-sectional study that urinary L-FABP is an excellent biomarker of AKI, and may be useful in predicting dialysis-free survival. The Japanese Ministry of Health, Labour and Welfare recently approved urinary L-FABP as a biomarker of renal tubular injury.

(意訳)

KDIGO発行: AKI標準治療ガイドライン

- 低酸素組織障害を受けている間、L-FABPは、細胞内の脂質過酸化生成物と遊離不飽和脂肪酸に選択的に結合する。
- 最近の研究で、尿中L-FABPがAKIを検出および評価できる可能性のあるバイオマーカーとして提示された。また、急性腎尿管壊死・敗血症・心臓手術・腎毒素・放射線造影剤が原因のAKIにおいて、早期マーカーであることが報告された。
- さらにこれらの研究で、血清クレアチニンの上昇の前に尿中L-FABPが高いレベル(値)に達することが示された。
- Ferguson et al. は、尿中L-FABPがAKIの優れたバイオマーカーであり、「無透析生存」の予測に有用であることを横断研究で証明した。
- 日本の厚生労働省は、尿管障害のバイオマーカーとして尿中L-FABPを承認した。

2010年 8月: nature REVIEWS(学術論文誌)に、1型糖尿病患者における有用性が掲載される。

2011年 8月: 厚生労働省より保険適応の認可取得【国内】

2012年 3月: KDIGO*発行のAKI国際ガイドラインで、L-FABPを含む5つのバイオマーカー**が紹介される。
(上記枠内)

2012年12月: デンマーク(欧州)にて、体外診断薬ELISAキット「RENISCHEM®」販売開始

2013年 8月: 日本腎臓学会発刊、「エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2013」に収載【国内】

*Kidney Disease:Improving Global Outcomes (国際腎臓病予後改善委員会)。2004年に設立された世界的な腎臓病学団体

**尿中L-FABP、血漿及び尿中Cystatin C、血漿及び尿中NGAL、Interleukins、尿中KIM-1

学会参加予定

- ▶ 第36回日本高血圧学会【展示】
会 期: 2013年10月24日(木)~26日(土)
会 場: 大阪国際会議場

関連発表1(口演)

10月24日【第1日目】16:30~18:00
TT1-1、第3会場 10F 1009
RAS活性化腎障害における腎L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)の腎保護作用の検討
演者: 市川 大介 先生
聖マリアンナ医科大学 腎臓高血圧内科

関連発表2(ポスター)

10月26日【第3日目】12:50~13:20
CP25-2、ポスター会場
イルベサルタン/アムロジピン酸塩配合錠の使用経験における血圧の変化とL-FABPの評価
発表: 本庄 弘次 先生
医療法人弘生会 本庄内科病院

製造販売元

シミツクホールディングス株式会社

L-FABP事業部 〒141-0031 東京都品川区西五反田7-10-4 金剛ビル
TEL:03-5843-4092 / FAX:03-3830-5455
URL:http://www.fabp.jp
E-mail:l-fabp@cmic.co.jp

取扱店